

<p>件 名</p>	<p>31 陳情第1号 全国知事会の「米軍基地負担に関する提言」の主旨に基づいて、地方自治の根幹を脅かす日米地位協定の見直しを国に求める意見書を提出する事を求める</p>
<p>要旨</p> <p>2018年10月、辺野古に新基地建設反対を掲げた知事を沖縄県民が選んだにもかかわらず、国は、その民意を無視し工事を強行に進めています。この事でも問題になったように、日米地位協定は、日本国憲法の理念、そして地方自治の根幹をも揺るがしかねない協定です。</p> <p>日米地位協定の考え方（補足版）第二条1項（資料1）に「米軍は、わが国の施政権下にある領域内であれば、どこにでも施設・区域の提供を求められる権利が認められている・・・わが国が米軍の提供を要求に同意しないことは、安保条約において予想されていない」とあるように、日本全国どこにでも米軍基地が出来る可能性がある事になっています。</p> <p>そんな中、全国知事会では、2016年11月から6回に渡り「米軍基地負担に関する研究会」を開催し、2018年7月にとっても意味のある提言（資料2）を発表しました。</p> <p>この提言が、実現できるように、貴議会が国に意見書を提出してもらいたく考えます。</p> <p>陳情事項</p> <p>瑞穂町議会は、全国知事会の「米軍基地負担に関する提言」の主旨を支持し、国に意見書を提出する事を求める</p>	

※原文のまま掲載しています。